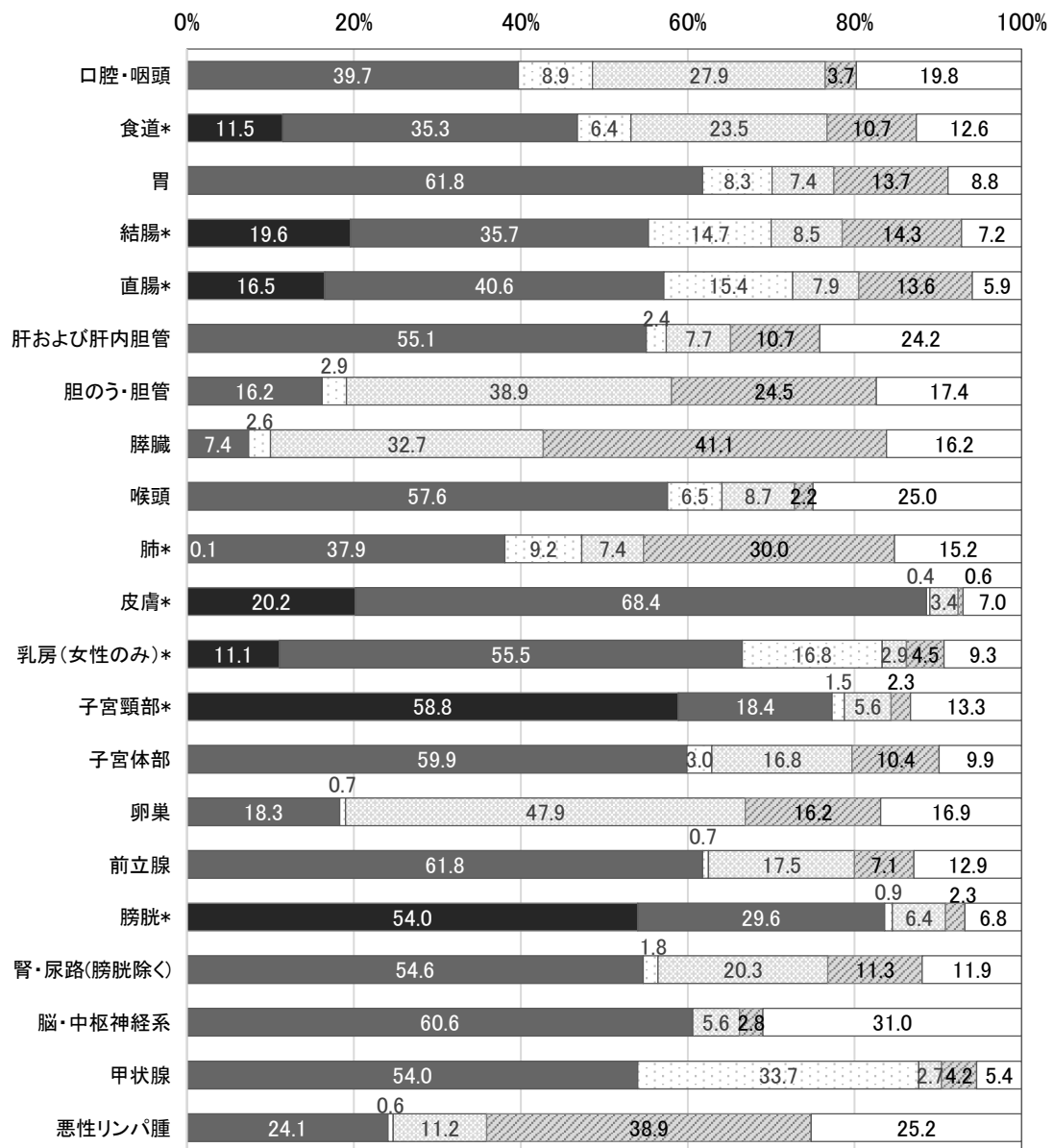


3 受療の状況

(1) 発見時の病期

一般的にがん検診が実施されている部位では、発見時の病期が「上皮内がん」及び「限局」とどまっている割合が高いが、肺はがん検診が実施されている部位ではあるが「遠隔転移」の割合が高い。また、胆のう・胆管、膵臓のように、腫瘍が比較的進行するまで自覚症状の出にくい部位においては、発見時に「隣接臓器浸潤」又は「遠隔転移」となっている割合が高い。【図 14】

図 14 部位別発見時病期割合 (%) : DCO 症例を除く (表 5-1. A, B から作成)



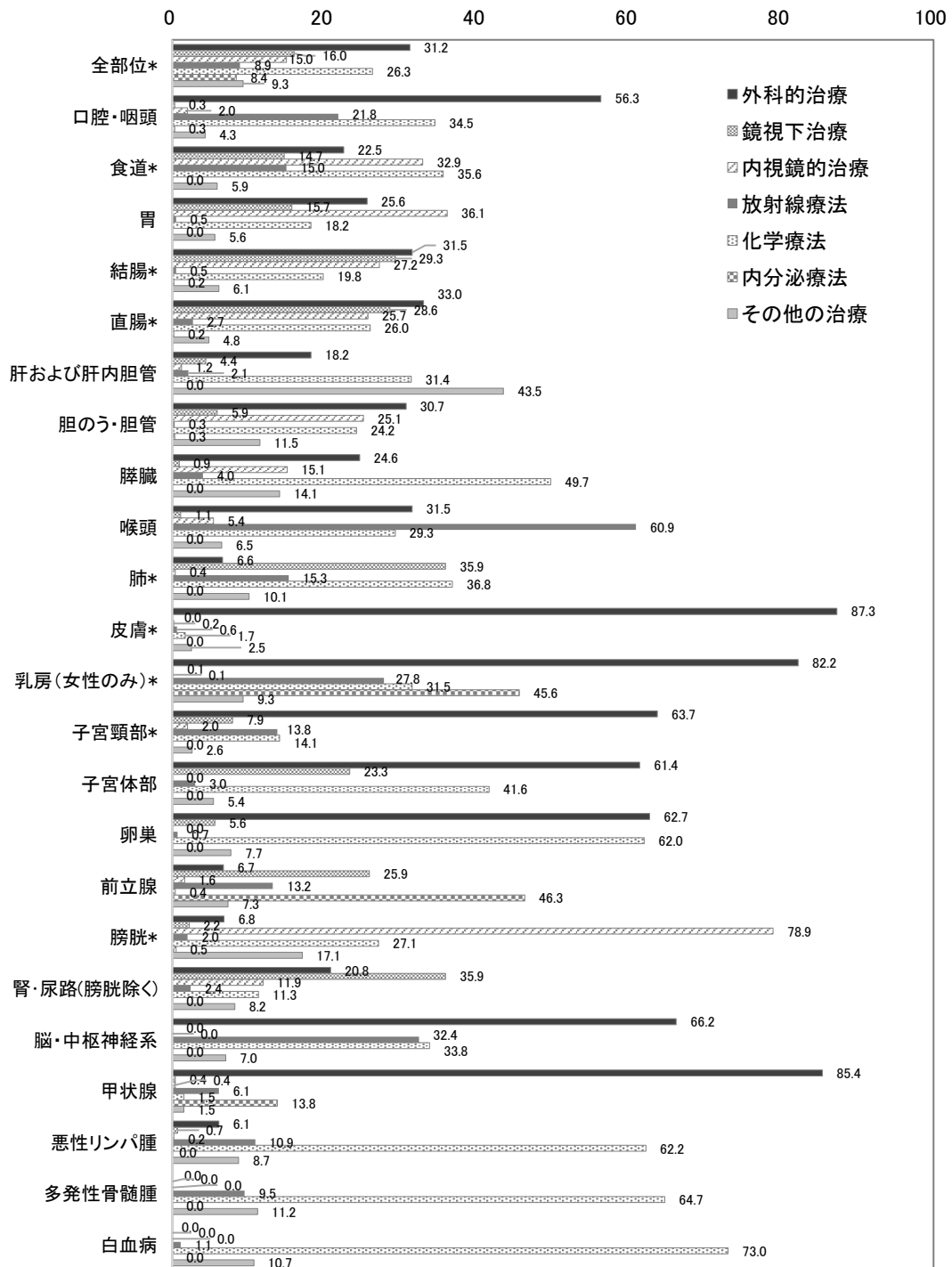
■上皮内 ■限局 □リンパ節転移 □隣接臓器浸潤 ■遠隔転移 □不明

*は上皮内がんを含む。

(2) 初回治療の内容

複数の治療を組み合わせられていることが考えられるが、皮膚、乳房、甲状腺などは外科的治療、喉頭は放射線療法、造血器腫瘍（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病）などは化学療法の割合が高い。【図 15】

図 15 初回治療内容割合(%) : DCO 症例を除く (表 6-A, B から作成)



* は上皮内がんを含む。